

に淵源するものであるから、其趣味が自ら武士の嗜好に合致せざるを得なかつたのである、又一方に能ひ言は佛敎の調子と配合したから、こゝに一味の悲哀が交らざるを得なくなつたものと見える。

○最後に大問題が取殘されて居る、それは表情と感情そのものとの關係に就てである、心理學の泰斗ヴントの説に由ると感情がまづ存在して然る後表情が露出すると説くのであるが、ゼームス、ラングは之に反對して表情があつて然る後感情を生ずるのであると考へて居る、後者の説の根據は約めて二點にすることが出来る(一)例へば病氣で呼吸が重くなる苦悶の情湧出し來るの類は、吾人日常の經驗であつて精神病者に最も多いが、これが此説の起る一因である(二)は催眠術を施して其被験者の態を泣くときの様子にすると、やがて其人は涙を流して泣き出す、これも亦此説の理由となつて居る、以上の二説は、何れを可とすべきか未だ充分の斷定を下すまでに立至らないが最近最も穩健と信せられて居るものは兩者を折衷したも

ので、即ち感情が表情を誘起し表情は又感情を強くすると説くのである、説の是非は暫く措いて、ゼームス、ラング説は精神修養に偉大な敎訓を與へるものと思ふ、言を換へて云へば感情陶冶に効力があると思ふ、腹が立つたら煙草一ふくてふ俚諺は、這般の眞理を語るもので、感情が起つたら、それに反對な表情をすると幾分か感情を柔げ得るのである、憤怒の情燃え立つとき、無理にも笑つて見ると、やがて心は自然に溶けてくるのである。

○以上述べた諸點を研究して表情に注意すると、必ず人間の容姿を作り其美を發揮すると思ふ。

(完)

●配布玩具の説明(承前)

記者

○自一歳至三歳男兒
1 改良太鼓 ブリキ製で首にかける様になつて居る、上方にシンバルが付いてゐて之を上から押す

と下方に出てるるばちが自ら太鼓を打ちて、シンバルと太鼓とが同時になる様になつてゐる、最近に出来たもので、極小さい子供に適當である。
2 電車積木 之は餘り新しいものではないが電車が出来る様になつてゐる、自分では出来ないかも知れないが、無闇に積むのもよい、又側から積んで見せると之をこわしたがるであらう、壊させるのも一つの慰である。

○自一歳至二歳女兒
ミス 之は大阪製で種類が澤山ある、本紙上新築玩具の紹介の處で一度説明したことがあるから略す。

○自三歳至四歳女兒
港の景色 之は名の如く港の景色が紙製できれいに出来てゐる、其側方に輪があつて之を手で廻すと景色中の船と汽車と電車が甘くくるく廻る、極静な觀察玩具で危険の恐れなく、又出来も割合に丈夫である。

○四歳男兒
鐵道玩具 厚紙を打ち抜いたもの、下にぶりきで

立てられる様に臺が付いてゐる、其の種類には實に色々なものが這入てゐる、先づ機關車一、列車四、人形十五其の他とんねる停車場、踏切、改札口、ポイントまでが揃つてゐる、種々に列べて模倣遊戯に用ふことが出来る、餘程價值ある玩具であると思ふ。

○自五歳至八歳男女
駒木片(一名指頭練習器) 大小不同の木片が種々様々な多角形に作つてあつてそれが六色に塗つてある至つて簡単な様なものであるが使用するとなると簡単なものが却て變化が多い、使用の方法は1 指頭にて一端を押し轉がして他の形のものに重ね掛けることが出来ると其の下のものを取る云ふ競争遊戯に用ゐられる二人でも多人數が二組に分れていもやれる之はよく將基の駒で遊ぶことである。

2 澤山を山の如くに積み重ねて置いて一本の指頭で音をさせない様に漸次くづし取る音がすると次の人の番になる之も競争遊戯に用ゐられる。

3 漸次高く積んで行くあぶない處で止つてゐる處

に興味がある甘い〜と拍手喝采をする處であ
る。

4 一片に多くの面があるが何れの面を底として

も立つ併し甘くやらなければ容易に立たない面

がある此の立つた時も拍手の時である澤山の木

片を適度の間隔を取つて立て、おいて一端のを

倒すと所謂將棊倒しが出来る。

5 甘く並べると幅一寸五分の長い棒になる所謂推

理的玩具になる。

6 色を教へることも出来る。

以上六種の用法があつて指頭の練習には之に過ぎ

る玩具はないと思ふ、本會の考案品で今回初めて

作つたものである、一般幼稚園の恩物として興味

の點から云ふも又價值の上から云ふも最も適當し

たもので一般に用ひて貰ひたいと思ふ。

○自九歳至十歳男

手工用具包 之は新案特許の極便利な布製の用具

包に小刀、コンパス、三角定規、千枚通、鋏、へ

ラ等小学校にて用ふる手工用具の凡てが入れてあ
る、之に收めておけば携帶が極便利で道具が損せ

ず整頓がよく出来て誠に便利である。

雜 錄

○第五回常會は去月九日附屬幼稚園内に開

會せり、當日は豫て宿題となり居たりし幼稚園に

於ける幼兒の躰方に就いて會員各自の實行談あり

學習院女學部附屬の幼稚園に於ける實況は野口幽

香氏之を話されたり、話中、一般幼兒の非常を戒む

る爲めに小さき振鈴を當直保姆袂にして隨時必要

なる時之を用ゐ居らるゝことは頗る異彩を放つて

面白く感じたり、其他番町幼稚園の後藤氏精華及

高輪の兩鈴木氏などとりへんに話され頗る實際に

有益なるものなりき、次回には本號廣告の如く觀

察的方面に就いて又々充分なる實驗談を發表せら

れんことを望む。

○新なる慈善的幼稚園 文部省が努めて此種の幼

稚園の設立を獎勵する丈、漸次其必要を認められ地

方の熱心家に因つて夫々實現の時機に達したるは
喜ぶ可し、近頃鹿兒島市に於ても同様の計畫あり